図書室だより

来ぶらり

きてぶらり　らいぶらり

夏号

今金町民センター図書室
〒049-4308
瀬棚郡今金町字今金68
TEL＆FAX 0137-82-2822

第50号　2026.6.19 発行

2025年ベストセラー（日販調べ）が発表になりました。第１位『大ピンチずかん３』（鈴木のりたけ／小学館）は大人にも大人気の絵本！図書室にもあるので、ぜひご利用くださいね。

今金町民センター図書室利用案内

開室日
水～日曜日　10:00～18:00
（12:00～13:00は閉室）

休室日
月・火・年末年始・特別整理期間

図書室ＨＰはこちら

貸出冊数（1人当たり）
本・雑誌　無制限
視聴覚資料　３本まで
※町外利用者は5冊までに限る

閉室時の本の返却は町民センター１階事務室、もしくは総合体育館入口の返却ポストをご利用ください。

■ まちかど文庫を利用してみませんか

町内施設に立ち寄ったとき、本棚を見かけたことはありませんか。町教委では「まちかど文庫」を町内13カ所に設置しています。こちらの本は、図書室で重複した本や保存期限が過ぎた本、北海道立図書館から譲り受けた本などを、気軽に読書が楽しめるよう設置しているものです。

まちかど文庫の本はその場で読んだり、持ち帰ってゆっくり読んだりと、楽しみ方は人それぞれ。

ぜひ、日々の読書を楽しんでくださいね。　（小笠原）

▲総合体育館に設置しているまちかど文庫

令和７年度 一番読まれた本

人気No.1

☆一般書(貸出13回)

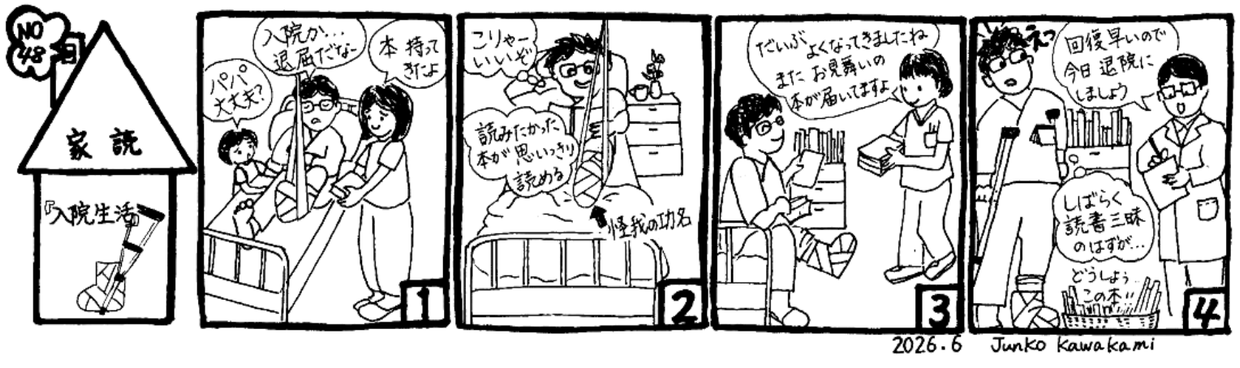
『およね式手間どろぼうレシピ』
およね／著　主婦の友社

『カフネ』阿部暁子 ／著　講談社

☆児童書(貸出9回)

『いちごりら』（絵本）
麻生かづこ／作　かねこまき／絵　ポプラ社

家読(うちどく)４コマまんが　※家読とは…家族で読書習慣を共有し絆を深める活動



今金町生涯学習情報誌 いまナビ

令和八年 六月十九日

～学びの“今”をナビゲートする～ 第41号

発行日：令和8年6月19日
発　行：今金町教育委員会
編　集：社会教育グループ
〒049-4393
瀬棚郡今金町字今金48番地の1
TEL　0137-82-3488
FAX　0137-82-3445

「今金町生涯学習情報誌いまナビ」は、毎月の広報紙「広報いまかね」では掲載しきれない教育関係の記事をはじめ、所属団体の活動情報、教育関係委員のコラムを掲載し、町民の皆様に教育関係事業の情報をお知らせするもので、年4回発行しています。教育委員会HPからは過去のいまナビもご覧いただけますのでご覧ください。ご感想もお待ちしています。

■ 第7回いまかねエッセイ（作文）コンテスト開催！ぜひ応募してみませんか

第７回いまかねエッセイ（作文）コンテストが今年度も始まりました。今回の募集テーマも「食」。皆さんの「食」にまつわるエピソードをエッセイに綴ってみませんか？表彰式は今金町総合文化祭にて行います。また入賞者には賞状と副賞のクオカードが贈られ、作品は作品集として発行します。

詳しい募集要項等は教育委員会HPに掲載されています。たくさんのご応募をお待ちしています。（樋口）

Photo by 小寺卓矢氏（こでらたくや）

【テーマ】 食 ～いただきますとごちそうさまの物語（ストーリー）～

応募規定	400字詰め原稿用紙２枚（800文字）程度、応募申込書を添付 ※高校生以上はペンネーム可
締切日	令和８年８月20日（木）必着
提出先	教育委員会・総合体育館・町民センター図書室 教育委員会HPからも応募できます。

▲教育委員会HP

応募要項、応募申込書、原稿用紙などがダウンロードできます。また、メールやインターネットからの応募もできます。

■ 北海道考古学会で矢原学芸員が登壇しました！

5月30日、北海道大学を会場に今年度の北海道考古学会研究大会が開催され、当町の矢原学芸員が登壇し、全5本の事例報告のうちの一つを務めました。矢原学芸員からは、最近の町教委が取り組む高精細な地形データを活用した分布調査を取り上げ、後志利別川流域に眠る江戸時代の砂金採掘跡やカニカン岳金山跡で大きな成果を得たことを詳しく報告しました。会場には123名が参集し、活発な議論が行われました。

なお、これまでの町教委の研究成果は町教委HPで公開中です。詳しくご覧になりたい方はこちらを参照ください。

（矢原）

■ 高い壁を乗り越え「七段」の境地へ！
鈴木康之氏（今金剣道少年団指導者）が「剣道七段」に昇段！！

毎週、総合体育館武道場に響き渡る子どもたちの元気な声！その中心で竹刀を握り、温かくも厳しい眼差しを向けるのが今金剣道少年団指導者の鈴木康之（すずきやすゆき）さんです。

鈴木さんは、5月9日名古屋市で行われた剣道段位審査会において、難関とされる「七段」に見事昇段され、その報告のため、恩師の垣本利光（かきもととしみつ）さんと一緒に、中山教育長に表敬訪問を行いました。

剣道七段は、高い実技能力はもちろん、指導者としての優れた識見や人格を備えた剣士にのみに与えられる、非常に栄誉ある段位です。鈴木さんは「今回の昇段は、恩師である垣本さんの教えがなければたどり着けなかったですし、日頃から共に汗を流す指導者や団員、支えてくださる地域の皆さまのおかげです。これからも七段の名に恥じぬよう精進し、剣道を通じて今金の子どもたちの健全な心と体を育てていきたい」と、満面の笑みで今後の抱負を語ってくれました。

鈴木さんの今後のさらなるご活躍と、今金剣道少年団の発展を町民皆さんでお祝いしましょう。　（早坂）

▲左から垣本さん、鈴木さん、中山教育長

モルック

ゆる～くスポーツに参加して、12月大会を目指してみませんか！職場の皆さんや友達、家族、もちろんおひとりから気軽にご参加ください。

ゆる～くスポーツ体験会			18：30～　総合体育館
日程	8月10日	11月９日	12月14日
種目	モルック		第３回ゆる～くスポーツ今金モルック大会

コラム
今金中学校体育祭

教育委員会　村瀬（むらせ）一人（かずひと）　委員

５月23日、今金中学校体育祭を観覧させていただきました。「勝てば焼肉、負けたらもやし！」という、とてもユニークな選手宣誓から始まり、応援合戦は３年生を中心に威勢の良いかけ声。開会式から紅組、白組ともにバチバチと熱い戦いが繰り広げられました。

今年のスローガン「百花繚乱～一人ひとりが輝いて花のように咲き誇れ！！～」。個人種目は選択制となり、世界陸上のように100メートル走と走り幅跳びを同時進行し、ハンドボール投げや中距離走と今までと違う形での試みがあり、新たに整備されたグラウンドの中で、みんな一生懸命頑張っている姿は、とても輝いて見えました。

▲白熱するリレー！

どんなことでも新たなことを試したり挑戦することは大変です。人口減少などで部活動のあり方や様々な現代の課題がありますが、子どもたちみんながこれからも輝いてくれたらと願っています。

社教三委員会委員のコラム
委員のよこがお

今金町社会教育委員会（８名）・今金町スポーツ推進委員会（８名）・今金町文化財保護委員会（６名）の各委員によるコラムを掲載します。それぞれの視点からのコラムをお楽しみに！

「学ぶって楽しい」を広げたい

社会教育委員会委員長　日置（ひおき）勇馬（ゆうま）

北海道今金町の豊かな自然に囲まれ、日々皆さんと共に歩めることを、心からうれしく思っています。社会教育委員長を務めさせていただくなかで、地域の皆さんから本当にたくさんのことを教わっています。子どもたちの元気な声、大人の方々の真剣なまなざし、そしてご年配の方々の豊かな知恵と経験。今金町にはそんな素敵な学びがあちこちにあふれています。

▲いまかねオリエンテーションの様子

「学ぶって楽しい」そんな気持ちを町全体で分かち合えるよう、難しく考えすぎず、気軽に集まれる場づくりを大切にしていきたいと思います。肩の力を抜いて、でもやるときはしっかりと。そんなスタンスで皆さんと共に歩んでまいります。どうぞ引き続き、よろしくお願いいたします。

スポーツの役割について

スポーツ推進委員会委員　垂石（たるいし）純尚（よしなお）

主に学校の体育を担当する中で、私は運動能力の向上だけでなく、ルール遵守や仲間との協力といった「人間力」の育成を大切にしています。ここで培った力は、大人になってからも人生を豊かにしてくれます。

大人にとって、スポーツは最高の余暇です。心身をリフレッシュして明日への活力になるだけでなく、世代を超えた人間関係が広がる魅力もあります。

私自身、スポーツ推進委員として多くの町民の皆さんと出会えたことが大きな喜びです。今年度も様々なイベントを開催しますので、ぜひ一緒にスポーツを楽しみましょう。皆さんのご参加をお待ちしています。

美利河砂金採掘跡の整備と人づくり

文化財保護委員会委員長　小田島（おだじま）輝志（てるし）

最近新聞報道で、美利河ダム付近にある砂金採掘跡の整備のことが取り上げられました。町教委は今年度から2年計画で整備を進め、来年秋頃には誰でも見学できるようにするとのことです。大変楽しみであり、 ぜひ多くの人に訪れてもらい、当時のゴールドラッシュのようすを思い描いてもらいたいものです。

さて、昨年夏にデ・モーレンで開催された清流まつりでは、後志利別川の砂金を含んだ土砂を水槽に入れ、専用の皿で選び出す「砂金掘り体験」がありました。約60人が体験する人気ぶりで、取れた時の参加者の満面の笑みが忘れられません。砂金はごく小さいですが、心に残る大きな体験になったようです。近年は、小学校の授業で川に行き、学芸員が砂金掘りを教えているそうです。この町の子どもなら必ず経験しておくべきことだと、この取り組みに大いに賛同します。砂金がきっかけで町に愛着をもつ人が育つことを願っています。